

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立有田工業高等学校 定時制課程
-----	--------------------

1 前年度 評価結果の概要	学力の向上については、学習に関するアンケートを実施し生徒の実態把握を行った。職員相互の授業参観で職員の授業力向上を図るとともに、オンライン授業の実施等、コロナ禍における生徒の学習の機会の確保などを行った。心の教育については、学校生活アンケートで生徒の様子の変化の早期発見と対応に努め、毎週の生徒連絡会で生徒情報の共有を行い、組織的に生徒支援に努めることができた。必要に応じて、スクールカウンセラーの活用も行った。また、いじめに関しては、担任や生徒指導部で協力して面談を行うなど、早期発見、早期対応を行った。健康・体力づくりについては、毎日の「生活チェック表」と「心のチェック表」の記入で、生徒の小さな変化に気づき対応することができた。業務改革・教職員の働き方改革については、会議資料の事前配布と会議時間の短縮に努めた。各部署の業務についても職員間の報告・連絡・相談で連携し、業務改善につながるよう努力した。オンラインによる授業や集会については、効果的な活用法について、今後研修機会を増やしていかなければならない。
------------------	--

2 学校教育目標	勉脩 「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立型人間の育成
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	① 出席率の向上と教育活動の改善 ② あいさつ、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ③ 進路保障に繋ぐ学力向上、資格取得、部活動 ④ 生徒、職員の心身の健康増進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	○出席率の向上。 ○基礎学力の向上と学習意欲の喚起。	○出席率 <u>90%以上</u> を目指す。 ○「学習に関するアンケート」で、生徒自身に関わる項目の回答の平均値「 <u>3. 0</u> 」を目指す。	・欠席が多い生徒の保護者等と密に連絡を取り、授業の欠席状況や課題の進行状況等を保護者へ伝える。 ・職員相互の授業見学と公開授業の実施 ・「学習に関するアンケート」を実施し、生徒の自覚を促すとともに、指導法の改善と学力の定着を図る。	A	・毎週1回、生徒連絡会で「気になる生徒」の出席状況・学習状況等について職員間で共有した。 ・欠席した生徒については、毎回担任より保護者への連絡を取り、生徒状況の把握に努めた。 ・授業力向上、改善のために、学習に関するアンケートを全教科で実施した。 ・10月末の2週間に、保護者・事業者対象の公開授業と相互授業参観を行い、職員の授業力向上の取り組みを行う予定。	A	・週1回の生徒連絡会により、生徒の出席状況等を職員間で共有し、生徒も自分の出席状況を自覚しながら学習に臨むことができていた。欠課時数超過の生徒がいなかった。 ・「学習に関するアンケート」の学年末のの平均値は「3. 0」を超え、「3. 5」を超える教科もあった。 ・出席率90%を達成できた。（1月末現在） ・自宅待機の生徒に向けて、オンライン授業を行った。今後も積極的に学習用パソコンを活用した授業計画をし、生徒の学習の機会を広げていきたい。	教務 学年	
		○基礎学力向上を目指すことにより、進路実現へ繋いでいく。	◎就職率・進学率を <u>100%</u> にする。	・就業率を上げるための進路指導を行う中で過去問題やSPI対策の充実を図る。 ・基礎学力向上のため、国・数・英での小テストを行っていく。	A	・卒業予定生徒で就職・進学に必要な科目が開講されてないときには、個別に指導を行っている。 ・進路先を決められない生徒がおり、引き続き指導を行っていく。	A	・卒業予定生徒の進路希望先は夏の時点で決定することができた。 ・また、必要に応じて進学に必要な受験のための個別指導を各教科の先生方から行ってもらった。 ・入学当初から、卒業後の進路への意識・学ぶ意欲を高め、登校を促す必要がある。	進路
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を育てる教育活動。	○学校評価生徒アンケートの「心の教育」の項目の平均値「 <u>B判定</u> 」以上を目指す。	・地域社会や学校生活との関連性を踏まえた内容で、特別活動の年間計画を策定する。 ・講話や講演会後の感想文の記入を実施する。	A	・開校記念行事では、有田で地域活性化の取り組みの活動をされている方から講演をいただき、その後新聞部の取材活動につなげることができ、生徒の視野を広げる一助とすることができた。 ・講話・講演会では毎回感想文の記入を実施し、生徒それぞれが自分の考えを感想として書くことができている。	A	・学校評価生徒アンケートの「心の教育」の項目が全てA評価を達成できた。 ・講話・講演会の感想や全校集会時にメモ用紙を配布し、相手の話を積極的に聞く態度の育成に努めることができた。感想文からも、生徒の様々な考えを知ることができた。	教務 学年	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実。	○学校評価・保護者等アンケートにおいて、いじめに関する学校の取り組みの項目が <u>B判定以上</u> を目指す。	・生徒、保護者等に向け年3回のアンケートを実施する。 ・日頃から生徒の状況を職員全体で共有し、生徒の変化があった場合には速やかに面談・情報共有・保護者等に連絡を行う。 ・月1回「心のチェック」を実施し、気になる生徒への早期対応を確実に行う。	A	・定期的に学校生活調査アンケートを実施できており、生徒による学校評価アンケートではいじめに関する項目で全てA評価である。記入内容を踏まえ、個別面談、職員間の情報共有を行うことができており、保護者への連絡、意見交換も的確に行うことができています。 ・毎日、生活チェック表で心の健康状態を記入させている。気になる生徒は、担任や養護教諭が声かけを行っている。また、必要時は全職員への情報共有をしたりと、早期発見・早期対応に努めることができています。	A	・生徒・保護者に向けた年3回のアンケートをはじめ、日頃から生徒の変化について職員間で情報共有を図り、組織的に対応することができた。生徒による学校評価アンケートではいじめに関する項目で全てA評価であった。 ・毎日の生活チェック表記入と月1回の「心のチェックシート」記入を実施し、担任・養護教諭が気になる生徒への声かけを行うなど、いじめの早期発見・早期対応を心がけることができた。	生徒指導 保健	

●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上を目指す。 ○「健康・体づくり」には規則正しい生活習慣が必要であることを理解できる生徒80%以上を目指す。	・毎日の「生活チェック表」を記入することで、生徒自身が生活習慣を見直し、改善を心掛けるような意識付けをする。 ・喫食率が低い生徒への声掛けを積極的に行之い、給食室への入室を呼びかける。 ・生徒と保護者等を対象に、健康意識を調査するアンケートを実施し、食と健康に関する生徒の意識を把握するよう努める。	A	・毎日の「生活チェック表」を担任が確認し、また、登校時に保健厚生部で検温をするなど、養護教諭・保健厚生部・各科で連携を取りながら、生徒たちに声かけを行うことができています。引き続き、生活習慣の改善につなげていきたい。 ・喫食率が低い生徒への声掛けも継続して行っていきたい。	A	・毎日の生活チェック表記入と、登校時の保健厚生部による健康観察の実施により、生徒が自らの生活習慣を確認し、改善を心がけるよう働きかけることができた。 ・「保健だより」「給食だより」の定期的な発行や「食育講話」の実施を通じて、生活習慣・食習慣についての意識を向上させることができた。 ・生徒に対して健康意識に関するアンケートを実施し、「健康に食事は大切である」と考える生徒が80%以上であることを確認することができた。	保健
	○生徒会活動と部活動を通じ社会性を身に付けさせる。	○「部活動を通じて他学年と交流し、社会性が身に付いた」と考える生徒80%以上を目指す。	・各部活動において礼儀作法指導や他者と協力して成果を得る活動を行う。 ・協調性や達成感を得る主体的な生徒会活動を実践する。	A	・第1回目のアンケート実施結果では、「部活動を通じ心身が健康になった」と考える生徒は80%と前年度を上回った。 ・生徒が主体となりスポーツフェスティバルなどの生徒会行事を行うことができた。	A	・文化部の人数も増え、ますます活動が盛んになった。また、他校との交流もあり他者と協力して作業をする姿が見られた。 ・各行事で、役割分担を明確にしたことで、生徒自ら積極的に活動することができた。	生徒会
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1回の定時退勤日を設定する。 ・会議資料の事前配布により会議時間の短縮を図る。 ・職員間の意思疎通と報告・連絡・相談を徹底し、業務分担と互いに助け合う環境作りに努める。	A	・月の時間外在校時間については、4月は平均16時間19分、9月末までの平均が16時間1分で、昨年度より1時間44分の減であった。45時間超過者3名(うち平均で80時間超過者1名)であり、業務の振替・分担等で超過者を減少させたい。 ・会議資料の事前配布は確実にしている。 ・職員相互の助け合う環境をさらに整備していくことが求められる。	A	・現段階で時間外在校時間が昨年度より、3.3%減であり、職員の意識が変化している。ひと月100時間超えの職員も該当なしである。 ・職員会議等の事前配布により、会議前に資料を確認できる等、会議時間の短縮にも繋がっている。 ・各科会議や生徒連絡会で情報共有等を行っているが、一部の職員への負担が大きい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○地域産業との連携	★聴講生制度の取り組みで、セラミック科・デザイン科の特色を地域へ発信する。	○講座終了後にアンケートを取り、聴講生個々の掲げた目標(技術向上)に対しての達成度70%を目指す。	・週3日の講座を開講し、セラミック科はろくろ成形の技術習得、デザイン科は生徒の授業の聴講による知識・技能の習得で、地域産業の技術者の育成に貢献する。	A	・聴講生の方には、毎時間意欲的に授業に参加し、技術の向上に努めて頂いている。 ・デザイン科の授業では、生徒と一緒に授業で生徒との交流もできており、互いに良い刺激になっている。	A	・窯業コースでは、佐賀市と福岡県で開催したセラミック科展で聴講生の作品も展示し、活動紹介と制度の周知を行うことができた。聴講生も日々熱心に研鑽を積まれている。 ・デザインコースは、生徒と共に学び、作品の合評会などで互いに色彩感覚や技術面を称えあい、聴講生の満足度も高いと思われる。	セラミック科 デザイン科

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5	総合評価・ 次年度への展望	・生徒個々の学習状況等に関して、担任及び授業担当職員からの声掛けにより、生徒の学習意欲の向上を図ることができた。職員相互の授業参観やオンライン授業の職員研修を行った。今後も、生徒目線に立ち、最適な学習環境づくりの実施に向けて研修を進めるとともに、学習用パソコンについても、積極的な授業での活用を進めていきたい。 ・毎週の生徒連絡会で生徒情報の共有を行ったことにより、生徒間のトラブルや学習状況の把握等、組織的に生徒支援に努めることができ、学校が生徒が安心して過ごせる環境として機能できていたと思われる。また、スクールカウンセラーからの助言も大変参考になった。いじめに関しても、担任や生徒指導部で協力して面談を行うなど、早期発見、早期対応を行った。健康・体力づくりについては、毎日の「生活チェック表」と「心のチェック表」の記入で、生徒の小さな変化に気づき対応することができた。 ・業務改革・教職員の働き方改革については、会議資料の事前配布と会議時間の短縮に努めた。各部署の業務についても職員間の報告・連絡・相談で連携し、業務改善につながるよう努力した。オンラインによる授業や集会については、効果的な活用法について、定期的な研修を計画していきたい。
---	------------------	---